

第12回 2021年 1月～3月 美濃加茂市内企業 業況調査の結果について

調査項目（自社業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰り）

2021年3月に会員60事業所について業況調査を実施し、60事業所から回答を得ました。（回答率100%）
ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。今後も年4回実施していきますので、ご協力頂きますようよろしくお願いたします。

【表1】2021年1月～3月期の動向

※ DI(景気判断指数)とは、業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

【業況DI】

業況	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	0.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 60.0	▲ 30.0
観光・飲食	▲ 60.0	▲ 70.0
建設	▲ 20.0	▲ 60.0
工業	▲ 10.0	▲ 20.0
商業	▲ 90.0	▲ 40.0
全体	▲ 40.0	▲ 40.0

【仕入単価DI】

仕入単価	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	▲ 30.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 30.0	▲ 30.0
観光・飲食	▲ 30.0	▲ 30.0
建設	▲ 20.0	▲ 60.0
工業	▲ 60.0	▲ 30.0
商業	▲ 40.0	▲ 20.0
全体	▲ 35.0	▲ 31.7

【売上DI】

売上	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	0.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 50.0	▲ 30.0
観光・飲食	▲ 70.0	▲ 70.0
建設	▲ 20.0	▲ 70.0
工業	10.0	0.0
商業	▲ 90.0	▲ 40.0
全体	▲ 36.7	▲ 38.3

【従業員DI】

従業員	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	20.0	10.0
運輸・自動車	10.0	0.0
観光・飲食	▲ 10.0	10.0
建設	40.0	40.0
工業	10.0	▲ 10.0
商業	▲ 10.0	10.0
全体	10.0	10.0

【採算DI】

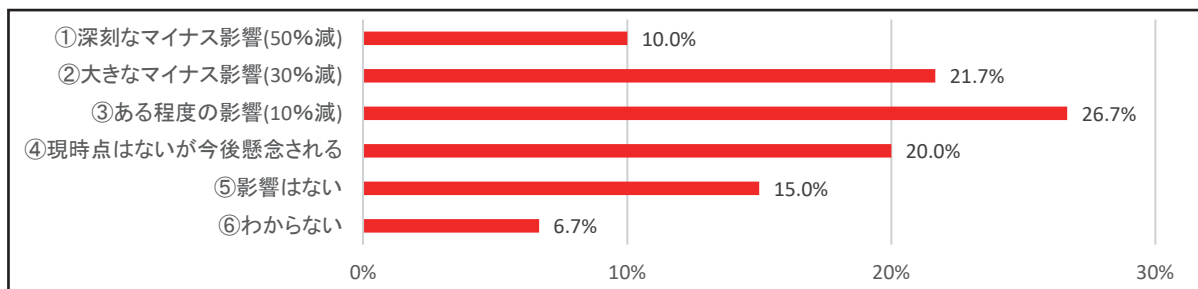
採算	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	0.0	▲ 30.0
運輸・自動車	▲ 60.0	▲ 30.0
観光・飲食	▲ 70.0	▲ 70.0
建設	▲ 20.0	▲ 60.0
工業	▲ 20.0	▲ 20.0
商業	▲ 70.0	▲ 40.0
全体	▲ 40.0	▲ 41.7

【資金繰りDI】

資金繰り	今期2021年1月～3月	先行き 2021年4月～6月
サービス	10.0	0.0
運輸・自動車	▲ 20.0	▲ 10.0
観光・飲食	▲ 40.0	▲ 50.0
建設	0.0	▲ 20.0
工業	▲ 10.0	▲ 20.0
商業	▲ 30.0	▲ 30.0
全体	▲ 15.0	▲ 21.7

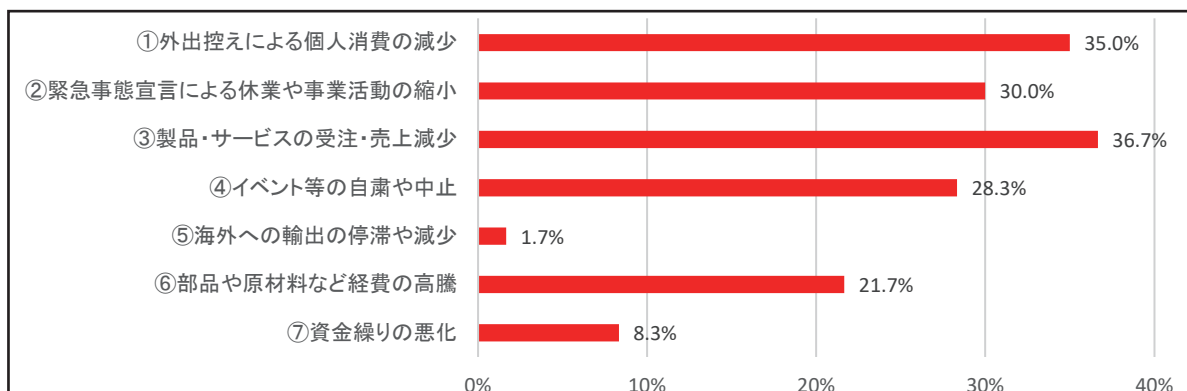
【表2】新型コロナウイルスによる現在の経営への影響について

新型コロナウイルスによる現在の経営への影響についての問いに、「①深刻なマイナス影響(50%減)」が(10%)「②大きなマイナス影響(30%減)」(21.7%)、「③ある程度の影響(10%減)」(26.7%)と58.4%の事業所が影響があるとの結果となった。



【表3】新型コロナウイルスの具体的な影響について

新型コロナウイルスの具体的な影響について表2で影響を受けたと回答された方に伺ったところ、「製品・サービスの受注・売上減少」が(36.7%)が最も高く、次に、「外出控えによる個人消費の減少」(35%)、「緊急事態宣言による休業や事業活動の縮小」(30%)と続く結果となった。その他の意見として、「行き場を失った商品の廃棄がある」「新規物件の減少」「設備投資を考える企業の減少」「公共工事の減少」による影響があると答えた企業もあった。



【調査結果】

【表1】業況・売上・採算をみると、サービス業を除く全ての業種で落ち込みがみられたが、企業からは「美濃加茂市のいろいろ応援チケットが大変助かった」との意見もあった。仕入価格は、前回の調査と比較すると価格が上昇傾向であると回答している事業所が多い結果となった。製造業からは、「使用する部品の値上がりがある」との意見もあった。従業員については、前回の調査と比較すると回復傾向ではあるが、特に観光・飲食業については過剰と回答している企業が多い。資金繰りについては、サービス業・建設業を除く業種が「悪化している」と回答している。

【表2】今回はコロナウイルスの影響について調査を行なった。「ある程度の影響(10%減)がある」が26.7%で、次に「大きな影響(30%減)がある」が21.7%と続く結果となった。特に、商業・観光飲食業が深刻なマイナス影響であると回答した企業が多かった。

【表3】コロナウイルスの具体的な影響について伺ったところ「製品・サービスの受注・売上減少」(36.7%)・「外出控えによる個人消費の減少」(35%)、「緊急事態宣言による休業や事業活動の縮小」(30%)と続いた。

2021年1月～3月期は「商業」や「観光・飲食業」「運輸・自動車」が特にコロナウイルスによる影響を受けている結果となった。業況感について伺ったところ、飲食・観光業からは「大変厳しい状況である」、「連休中の予約がキャンセルになり厳しい状況である」「先行きが不安である」、建設業からは「民間需要が悪化しているため公共工事に期待したい」「元請業者の動向次第で今後影響がある」「ワクチン接種の早期普及により人々の不安が解消されることが大事である」との意見があった。また、「ネット販売を強化していきたい」「現状のままでは売り上げの減少は続くと思われるため新分野展開や業態転換が必要である」「販路拡大の対策を行っている」「新製品を作って売り上げを増やしたい」「新しい分野にも目を向けていきたい」など前向きな声もあった。